

秋田市教育委員会
会 議 録

令和5年9月定例会

記録者

秋田市教育委員会令和5年9月定例会会議録

1 日 時 令和5年9月28日（木曜日）
午後3時30分～午後4時50分

2 場 所 5-A会議室

3 出席委員 教育長
教育委員
教育委員
教育委員
教育委員

4 出席職員 教育次長
教育次長
総務課長
総務課参事
学事課長
学校教育課長
教職員室長
教育研究所長
学校適正配置推進室長
生涯学習室参事
御所野学院高等学校長
御所野学院高等学校事務長
総務課長補佐
学校適正配置推進室副参事
教育研究所主席主査
総務課主査
総務課主査
学事課主査
総務課主任

5 議 題

【付議案件】

議案第15号 教育委員会事務の点検・評価に関する件

【教育長等の報告】

- (1) 令和6年度秋田市立御所野学院高等学校連携型中高一貫入学者選抜実施要項について
- (2) 令和5年度全国学力・学習状況調査における秋田市の結果について
- (3) 学校適正配置に関する地域協議の開催状況等について

6 議 事 午後3時30分開会

【令和5年8月臨時会、8月定例会および9月臨時会会議録の承認】

令和5年8月臨時会、8月定例会および9月臨時会会議録について、異議がないため承認された。

【会議録署名委員の指名】

教育長が今回会議録の署名委員として委員2名を指名した。

【付議案件】

議案第15号 教育委員会事務の点検・評価に関する件

教育長 議案第15号「教育委員会事務の点検・評価に関する件」について、事務局から説明願う。

総務課長 (資料に基づき説明)

委員 学識経験者の意見だが、具体的な指摘が多く、とても参考になった。その中でも、コロナ禍の影響も少なくなってきたので、これまで控えてきた行事などを正常化し、各項目で頑張ってもらいたいという意見が多かったように感じた。

また、様々な項目で学識経験者の方から非常に参考になる意見があがっているので、教育委員会側でもしっかり受け止め、今後の施策に取り入れてほしい。

学識経験者の意見の中で郷土に根ざした教育の充実の部分において、小中学校の統合が進み、学区が広がっていく中で、個々の地域の文化や歴史に触れる機会が減少していくことが懸念されると指摘されている。現在、統合を進めているところであるが、学校が地域の文化の継承に役立っているので、統合を進めていく際には、それぞれの地域の文化が廃れていかないような工夫を凝らしながら、進めてほしい。

教育長

統合する際、それぞれの個々の地域文化の継承について、配慮している点はあるか。

学校適正配置推進室長

統合が決まった学校において、これまで地域で培ってきた伝統や文化の継承を引き継げるよう学校統合準備委員会の中でも十分に協議している。

また、今年度は、下浜中が秋田西中と統合したが、下浜中の伝統行事を統合先の秋田西中で披露する場を設けた。それに対して、地域の皆さんも生徒たちの指導に携わっていただき、学校、地域および保護者の全員が連携してコミュニケーションを取れるように配慮している。

教育長

学識経験者の意見をどのように生かしていくかについて、これまでの経緯も踏まえて、どのように考えているか。

学校教育課長

I C Tの活用について、学識経験者より個人の教職員に差が出ないようにとの指摘があった。

現在もI C T担当の指導主事が各学校に赴いて講習会を実施している。今後についても、各学校のニーズや職員の実態に応じた研修を行っていきたいと考えている。

教育長

ただ今の説明は、I C Tの活用についてであったが、そのほかの部分も全体的に学識経験者の意見を反映させるということが良いか。

学校教育課長

そのとおりである。

委員

I C Tの部分で指導資料「タブレット端末活用事例集」を作成し、各校に配布したとあるが、資料の媒体は何か。

- 教育研究所長 タブレット端末活用事例集に関しては全教員にC4th個人連絡で送付している。過去には、紙で各校に1部送っていたこともあるが、どこかに保存されて終わりということになる可能性も考えられるので、全ての教員に届く方法を考えた結果、C4th個人連絡を選択した。
- 委員 デジタルの時代であることから、できるだけ紙を使わない方法を常時考えていくとスキルも上がっていくと思う。
- また、今後、児童生徒がタブレットを自宅に持ち帰る方向に変わっていくと思うが、その際、教員たちがきちんとICTの活用について理解したうえで、児童生徒に持ち帰らせなければ、ただの重りを背負わせて登下校させるだけになると思うので、活用の仕方等を考えてほしい。
- 学校教育課長 児童生徒のタブレットの持ち帰りについては、今まさに進めているところである。今後、準備の整った学校から持ち帰りを開始するように動いている。ご指摘のとおり、何のために持ち帰り、持ち帰った際にどのような活用方法があるのかということが教員、児童生徒、保護者に伝わらなければ、ただの持ち帰るだけの物になってしまうので、リーフレット等の資料を提供し、意義のあるタブレットの持ち帰りになるよう努めている。
- 委員 学識経験者よりスクラップアンドビルドが必要との意見も出ているが、現時点で教員の負担軽減に向け、どのように考えているのか。
- 教職員室長 スクラップアンドビルドについては、学校の多忙化防止対策を徹底しているところである。学校でも業務の削減や行事の精選など様々行っている状況である。業務量の削減、精選については、来月に校長会の情報交換会があるので、その中で情報共有していきながら進めていきたいと思う。
- 委員 コロナ対応で忙しくなった上に、コロナ禍が明けて様々な行事を今までどおりに行うと、現場の教員の業務量はさらに

増えると思うので、現場の職員の皆様には頑張ってもらいたいと思う。

教育長

教員の働き方改革については、スクラップアンドビルドという考え方を進めなくてはいけない。しかし、現状でスクラップできることがなかなか見つからないということも各校の悩みだと思う。

行わなければいけない業務量が変わらないのであれば、人を増やさなければいけないと思う。そのために、全国の中核市教育長会等を通して、国に繰り返し働き掛けている。令和型の日本の学校教育の教員のあり方ということで、国も取り組み始めているところもある。

教育次長

9月8日の文部科学省の通知では、中央教育審議会の提言を受け、行えることから進めるようにとのことだった。

秋田市では、勤務時間を管理するシステムの作成や出欠の確認をスマホなどで掌握できるようにしている。また各校では、保護者にきちんと資料を提供したり面談でフォローしていくということを前提に、通知表の所見欄の記載を前学期、後学期に書いていたものを後学期のみにするなどの変更を行っている。

ただ、提言にも出た教員が本来やるべき仕事でない3分類の周知が進まず、保護者からの理解を得られないという問題点がある。各学校だけでは理解を得るのが難しいので、教育委員会としてもフォローしなければいけないと考えている。

教育長

教員が本来やるべき仕事というものは何かということについて、もっと国が先頭を切ってPRし、全国的に保護者の皆さんに浸透していかなければ、なかなか学校だけでスクラップしていくことは難しいと感じている。そのような点について、国には要望していきたいと思っている。

委員

学識経験者からは大変広い視野で専門性を生かしたアドバイスをいただいている。学校教育課長から説明があったよう

に、教員方と共に今あるものを工夫や改善しながら進めていることは理解できる。また、それだけではなく、予算を確保しながら実施していかなければいけない部分もあると拝察するので、限られた予算の中ではあるが、皆さんのお考えを配慮いただければと思う。

教育長 予算確保に向けて頑張っていきたいと思う。

※ 議案第15号については、全員賛成により、議決された。

【教育長等の報告】

(1) 令和6年度秋田市立御所野学院高等学校連携型中高一貫入学者選抜実施要項について

教育長 報告(1)「令和6年度秋田市立御所野学院高等学校連携型中高一貫入学者選抜実施要項について」事務局から説明願う。

学事課長 (資料に基づき説明)

委員 令和6年1月1日以降に転入した生徒も連携型中高一貫入学者選抜の対象となるのか。

御所野学院高等学校長 そのとおりである。

教育長 これまでに1月1日以降に転入し、連携型中高一貫入学者選抜制度を利用した生徒はいたか。

御所野学院高等学校長 これまでは、いない。

教育長 様々な事情があつてそのような状況になつた場合、止める根拠はないということになる。

委員 障がい等があることにより特別な配慮を必要とする志願者がいる場合との記載があるが、これまでには、どのような事例があつたのか。

御所野学院高等学校長 令和2年度の入試で特別支援学校から志願者が1名いた。その時は、障がいに応じた試験の実施方法を行ったと理解している。その生徒に関しては、学校生活や試験の状況についても特に問題もなく終了した。

する特別活動等で点数化している。

委員 ワープロとの記載があるが、現在ワープロを使っている人もいないと思われるので、来年度以降、表現の検討をしていただきたい。

教育長 今後、検討してほしい。

※ 報告(1)については、以上のとおり終了した。

(2) 令和5年度全国学力・学習状況調査における秋田市の結果について

教育長 報告(2)「令和5年度全国学力・学習状況調査における秋田市の結果について」事務局から説明願う。

教育研究所長 (資料に基づき説明)

委員 コロナ禍で会話する機会や自分を表現する場が少なかったと思うが、コロナ禍の前と後でコミュニケーション能力に違いはあるか。

教育研究所長 今回の調査では、コロナ禍の前と後でのコミュニケーション能力に対する直接的な質問項目はないが、児童生徒質問紙調査の「人との関わりについて」の「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思っている」子どもの割合は、令和3年度は小学校が64%、中学校では57%と低かったことから、コロナ禍で地域の方と関わる機会が少なくなっていたと推察している。それが今年度になると小学校は86%、中学校では77%と増加しており、このような点はコロナ前後では少し変わってきている。

教育長 令和3年度は、秋田市も低かったが全国も低かったということか。

教育研究所長 そのとおりである。

委員 英語に関してだが、「勉強が好きだ」や「勉強は大切だと思う」について全国平均よりも高い結果が出ている。また、「外国人の人と友達になったり、外国のことについてもっと

知ったりしてみたいと思う」ということに関しても子どもたちの希望が高いという印象を受けた。

しかし、以前何かの調査で英語に接する機会が他の都道府県に比べて低いという結果があったと記憶している。それを考えると子どもたちが希望を持っているという状況に対し、今後子どもたちにどのような機会を提供していくよう考えているか教えてほしい。

教育長

他の都道府県に比べて低いという内容は、令和5年度全国学力・学習状況調査における結果への県教育委員会教育長の発言だったと思う。本県全体の結果を見て、英語に接する機会が東北は少ないのではないかというコメントをされていたと記憶している。ただ、結果を見ると、この点については、秋田市の子どもたちは、比較的、英語に関して、日常的に触れる機会が多いのではないか。全国的には都市部の方が良かったのか。

教育研究所長

英語に関しては、「話すこと」以外の「書くこと」や「読むこと」に関して公表されているが、やはり都市部の方が高いという結果だった。先ほどの県教育委員会教育長の発言は、ネイティブの英語に触れる機会をいかに充実させるかを検討しているという内容だった。

本市では、ALTや外国語の教員のほか、様々な方たちと子どもたちが外国語や外国語活動の時間以外にもふれ合う機会がある。例えば、総合的な学習の時間などに様々な形で、ネイティブの方や日本国籍でも外国語を話せる保護者を巻き込んで学習している小学校もある。それが直接の要因かどうかはわからないが、本市の子どもたちは、英語が好き、外国の方と友達になりたいという質問項目の肯定的な割合が国よりも高かった。

教育長

本日、最初にご審議いただいた事務の点検評価の中でも学識経験者の方から英語と触れる機会を作らなければいけない

という意見もいただいているので、そういった点も踏まえて今後のことを考えていかねばならないと思った。

委員

「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う」と回答した子どもの割合が全国平均を小中ともに上回っているということで、大変有効だということを感じられる授業展開がされていると感じる。

一方で、「PC・タブレットなどのICT機器を、週1回以上した使用した子どもの割合」がまだ下回っている状況も見受けられるので、積極的に使う意味からも何か仕掛けていければと思う。例えば、先ほどの算数・数学の空間における直線や平面の位置関係やデータの分布の傾向はICTだとすぐよく見える部分もある。そのような部分を教員方が積極的に見せることで子どもたちの力にもなると思う。また、頻度が増していくというようになっていけば、どちらも効果的に伸びていくのではないかと推察している。学校訪問でも活用している場面を見せていただいていたので、教育委員会からもアプローチや事例なども提案していただければと思う。

学校教育課長

先ほども申し上げたが、タブレットを児童生徒が持ち帰るということを考えている。現在、本市ではデジタル教科書について英語、算数・数学を導入している。指導主事によると、英語については音読の面で非常に強みがあると聞いている。また、算数・数学においては、委員から話があったような図形の面でも視覚的に見れる要素があると思う。これからは、授業でも使え、家に帰って家庭学習でも使えるというようなリンクをさせながら、活用することが効果的なのだと子どもたちにも先生方にも実感していただけるように進めていきたい。

教育次長

この質問項目は、前年度についての質問なのでこのような結果が出ている。今年度、本市独自で行っている教育活動状況等に関する調査で5月頃に回答してもらっているデータを

見ると、日常的に活用している学校の割合は、小学校87.5%、中学校100%、全体91%、ほぼ毎日というのが小中合わせて全体の44%、週に数回が47%となっている。来年度の質問紙調査の結果に期待したい。

教育研究所長

昨年度と今年度、教科の研修会においてICTを活用した教材づくりを行っている。例えば、先ほど話に挙げた視覚的な部分は、タブレット端末の活用が非常に有効だということから、今年度の保健体育の研修会では、自分が走っているところを友達に撮影してもらい、オリンピック選手や走ることを専門とする方の画像と重ね合わせて、スタート時の体勢について学ぶことができる教材づくりの研修を行っている。

また、図画工作科や美術科の教科書の二次元バーコードには、読み込むと作品が回転するというものもある。タブレット端末の活用は視覚的なところでも非常に有効だと思うので、周知していきたいと考えている。

委員

「土曜日や日曜日などの学校が休みの日に、1日当たり1時間以上勉強をしている」と回答した子どもの割合が全国平均を大幅に上回っているが、家庭学習の習慣付けなど、どのような分析をしているのか。

教育研究所長

学校の先生方のいろいろな取組もあるかとは思いますが、保護者の方の協力がなくては身に付かないものと捉えている。

委員

本市の子どもたちが勉強熱心な保護者や恵まれた環境で、すぐ机に向かえるような習慣付けができるような環境に育っているのかと感じ、非常に良いことだと思った。

※ 報告(2)については、以上のとおり終了した。

(3) 学校適正配置に関する地域協議の開催状況等について

教育長

報告(3)「学校適正配置に関する地域協議の開催状況等に

ついて」事務局から説明願う。

学校適正配置推進室長
委員

(資料に基づき説明)

河辺小と戸島小が統合したら、どの程度の規模になるのか。

学校適正配置推進室長

令和8年度の全校児童数は176人を見込んでいる。クラス数に関しては、1年生が2クラス、2～6年生が1クラスの合計7クラスになる見込みである。

委員

太平小、下北手小での児童や保護者を対象とした交流事業とは、どのようなことを行ったのか。

学校適正配置推進室長

城東中学校へのプレ体験入学という形で、生徒会が中心となり、児童に対して城東中に関する質問をクイズ形式で行った。それに加えて、部活動の体験入学を行った。

また、児童がクイズ等を行っている間に、保護者の皆様からの入学に関する質問に回答することで不安の解消に努めた。

委員

大変丁寧な取組であると思うので、今後も続けてほしい。

※ 報告(3)については、以上のとおり終了した。

【その他、今後の日程についての報告】

野生動物の目撃情報を把握した際の対応について

委員

今年度は、全国的に熊や猿の出没が多い。それらの野生動物が、人に危害を加えたりする場面が最近多いが、どのような対策を考えているのか。

学事課長

熊の目撃情報や出没の情報に関しては、例えば警察、秋田市の産業振興部、地域の住民が発見するなど様々なケースが考えられる。その際、いずれのケースであっても、必ず相互に情報共有できるようにやり取りのルールを定めている。情報を入手した際には、広範囲に渡って関わりのあるような範囲の小学校、中学校に日中であれば電話で、夜間や休日であ

ればメール等で連絡を行っている。その後、学校から登下校時における注意喚起や保護者に個別のメール配信などをお願いしている。

また、併せて教育委員会側で発見した際は、産業振興部に連絡し、その後、産業振興部から警察や猟友会へ連絡され、しかるべき巡回やパトロールが行われる流れになっている。

除雪時の児童生徒の登校等の対応について

委員 本市では、今年は例年以上に頻繁に道路を除雪するようだが、それにより除雪車等の走行回数が増えることになると思うが、児童生徒の登校についてどのような対策を考えているか。

学校教育課長 現時点で、除雪に向けて特別に動いているということではないが、登下校に関して危険があるということの周知はしっかり対応していかなければいけないと考えている。校長会、生徒指導主事が集まる連絡協議会の場で、情報を伝え、各校から子どもへの指導、地域の方々への協力の依頼をして対応していきたいと考えている。

総務課長補佐 今後の日程についてお知らせする。10月定例会については、10月26日木曜日午後3時30分から開催する予定である。

教育長 10月定例会は、10月26日木曜日午後3時30分から開催予定とのことである。委員の皆様、よろしく願います。

午後4時50分閉会